伯内政（２０１４年大統領選挙：ＩＢＯＰＥ社世論調査）

　１１日付当国エスタード・デ・サンパウロ紙は，４日から７日にかけてＩＢＯＰＥ社により実施された本年の大統領選挙及びルセーフ政権の評価に関する世論調査につき，今回調査では主要候補のうちルセーフ大統領のみの支持率が低下する一方野党候補の支持率はいずれも上昇したため，決選投票の可能性が高まる結果となった旨報じているところ，概要とりまとめ以下のとおり。

１．ＩＢＯＰＥ社が６月４日から７日にかけて１４２市の２，００２人を対象に実施した，大統領選挙及び政府支持率に関する世論調査によれば，各候補の支持率は以下のように推移している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　３月　　　４月　　　５月　　　６月

ルセーフ大統領（ＰＴ）　　　　　　　　　４０％　　３７％　　４０％　　３８％

ネーヴェス上院議員（ＰＳＤＢ）　　　　　１３％　　１４％　　２０％　　２２％

カンポス前ペルナンブコ州知事（ＰＳＢ）　　６％　　　６％　　１１％　　１３％

エヴェラルド・ＰＳＣ副党首（ＰＳＣ）　　　３％　　　２％　　　３％　　　３％

他候補の合計　　　　　　　　　　　　　　　１％　　　３％　　　２％　　　４％

白票／無効票　　　　　　　　　　　　　　２４％　　２４％　　１４％　　１３％

分からない／無回答　　　　　　　　　　　１２％　　１３％　　１０％　　　７％

２．今回の調査においては，主要候補の中ではルセーフ大統領のみ支持率が低下し拒否率が上昇し，野党候補はいずれも支持率が上昇し，また政府支持率が低下し，ルセーフ大統領にとって悪いニュースばかりとなった。ルセーフ大統領の支持率（３８％）に対し，他候補の支持率の合計は４２％となっており，±２ポイントの誤差を考慮しても，選挙が決選投票にもつれ込む可能性は益々現実味を増してきている。前回の調査では，ルセーフの大統領の支持率は４０％で，他候補の合計は３６％であった。

３．決選投票に関する調査結果は以下の通り。

（１）ルセーフ大統領４２％（前回比１ポイント減），ネーヴェス議員３３％（９ポイント増）

（２）ルセーフ大統領４１％（１ポイント減），カンポス前州知事３０％（８ポイント増）

（３）現時点においては，決選投票ではルセーフ大統領が勝利を収めるとの結果が出ているが，今回の調査では野党候補の支持率が大幅に上昇し，ルセーフ大統領との差は一気に縮まった。

４．各候補の拒否率は，ルセーフ大統領３８％（前回比５ポイント増），ネーヴェス議員１８％（２ポイント減），カンポス前知事１３％（±０），エヴェラルド副党首１８％（２ポイント増）。主要候補の中では，唯一，ルセーフ大統領の拒否率だけが上昇している。

５．ルセーフ政権に対する評価は，「悪い／非常に悪い」３５％（前回比２ポイント増），「普通」３２％（２ポイント増），「非常に良い／良い」３１％（４ポイント減）となっている。「悪い／非常に悪い」が「非常に良い／良い」及び「普通」の両方とも上回ったのは，現政権発足以来，初めてのことである。また，「非常に良い／良い」の３１％という数字は，昨年６月の大規模デモ直後に行われた調査でも記録されたが，当時の「悪い／非常に悪い」は３１％であったため，現在の方が状況は悪いと言える。

６．今回の調査では，正副大統領候補のペアで支持率を測るという試みが行われた。その結果，ルセーフ大統領及びネーヴェス議員の場合，副大統領候補とペアでの支持率が大統領候補単独の時とほとんど変らなかったのに対し，カンポス前知事とシルヴァ元環境相の場合，支持率が１３％から１８％に上昇するという，有意な差が見られた。したがって，主要候補の副大統領候補の中ではシルヴァ元環境大臣のみが選挙に影響を及ぼす存在であり，カンポス前知事には伸びしろがあることがうかがえた。（了）